

パネルディスカッション

科学技術と社会

サイエンス・コミュニケーション

杉山 滋郎（北海道大学大学院理学研究院教授，科学技術コミュニケーター養成ユニット代表）

1. CoSTEP とは

科学技術コミュニケーター養成ユニット（Communicators in Science and Technology Education Program；略称 CoSTEP）が，2005 年度に北海道大学に誕生した。科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム。広く社会人にも門戸を開いて，科学技術コミュニケーター（科学技術の問題をめぐって，専門家と非専門家との間で橋渡しをする人）を養成している。以下は，そこでの経験に基づく。

2. 誰とのコミュニケーションか

ある体験

コミュニケーションの相手を明確に意識すべき

相手の文脈（コンテキスト）を理解する

「欠如モデル」から「文脈モデル」へ

どんな情報を提供すべきか，の吟味

3. サイエンス・カフェの意義

ある体験

“出ていく”ことの大切さ

ストーリーは参加者とともに作られる

4. 「市民の視点」の重要性

ある体験

「市民」が加わることで，いとも簡単に情報発信の質が向上する。

（ここでの「市民」は，「＜大学の事情＞に染まっていない，かつ広報などの＜業界＞に通じているのではない」というほどの意味）

5. 科学技術への市民参加

「コンセンサス会議」という手法

北海道主催で、遺伝子組換え作物の栽培をテーマに
北海道の施策に反映させることを前提に
他のテーマでも
科学技術コミュニケーターが活躍する場の一つ

参考情報

<http://gm-c.jp/> (コンセンサス会議事務局のウェブサイト)

<http://talk.cocolog-nifty.com/blog/> (ishikari さんのブログ)

6. 人材養成と人材登用の連動が必要